

少林寺たより

しょうりんじ たより たくりゅう

澤龍

No.25

令和6年正月号



中秋の名月

謹賀新年

旧年中の「厚情に深く感謝申し上げます
皆様の「多幸を心より」祈念申し上げます

今年は、太祖瑩山紹謹禪師の七百回大遠忌にあたる年です。大本山總持寺(横浜市)を開山された瑩山禪師は、曹洞宗開祖道元禪師より受け継がれた正しい教え、仏法を広く世の中に伝え、苦しみ迷う人々を救うべく多くの弟子を育成されました。

瑩山禪師は「茶に逢うては茶を喫し、飯に逢うては飯を喫す」とお示しになられました。お茶を頂く時はお茶を頂き、ご飯を頂く時はご飯を頂く。全てが仏の道で、この瞬間を大切に過ぎることを覺られました。

ー>本山へお参り致しましよう。
住職 清涼晃輝 合掌

AEDを本堂前に設置しました

今があるのはご先祖様のお陰

令和六年 年回表

一周忌	令和五年
三回忌	令和四年
七回忌	平成三十年
十三回忌	平成二十四年
十七回忌	平成二十年
二十三回忌	平成十四年
二十九回忌	平成十二年
三十五回忌	平成四年
三十七回忌	昭和六十三年
三十三回忌	昭和五十七年
三十九回忌	昭和五十三年
四十三回忌	昭和五十年
四十七回忌	昭和五十年
五十回忌	昭和五十年
五十四回忌	昭和五十年
五十七回忌	昭和五十年
六十回忌	昭和五十年
六十四回忌	昭和五十年
六十七回忌	昭和五十年
七十一回忌	昭和五十年
七十四回忌	昭和五十年
七十七回忌	昭和五十年
八十一回忌	昭和五十年
八十四回忌	昭和五十年
八十七回忌	昭和五十年
九十一回忌	昭和五十年
九十四回忌	昭和五十年
九十七回忌	昭和五十年
一百回忌	昭和五十年

仏の智慧に学ぶ

三級波高魚化龍（碧巖録第七則）

三級波高して魚龍と化す

悟りを得て禪門の龍象になる禪語。

中国の聖天子舜が、鱗に黄河の治水工事を命じるが、鱗は失敗します。子の禹が父の遺志を継ぎ、黄河上流の龍門山を三段に切り崩して水を通して、難工事を成功させたのです。舜から天下を譲られた禹は夏朝を開いたのです。これを「龍門（禹門）三級」と言われ、毎年三月三日桃の花の頃、多くの魚が龍門三級を登り、見事に登った魚は頭に角を生じ龍の姿となり、雲を呼び雨を起こし天に昇るという。特に魚類の長である鯉が龍になるという伝説です。

龍は想像上のものですが、古来より龍神としてまつられています。出世の登龍門や端午の節句鯉のぼりの語源です。難問や試練はあるが、あれこれ考えず、まずチャレンジ。何事もやる気次第です。

澤ちゃんの仏教仏事Q & A



曹洞宗の宗祖は?

「宗門は、仏祖單傳の正法に遵い、只管打坐、即身是仏を承當することを宗旨とする。」（曹洞宗宗憲 第二条）

曹洞宗は、お釈迦様より歴代の祖師方によつて相続された「正伝仏法」を依りどこらとする宗派です。それは坐禅の教えを依りどこらにしており、坐禅の実践によつて得る身と心のやすらぎが、そのまま「仏の姿」とあると自覚する」とあります。

そして坐禅の精神による行住坐臥（「行」とは歩くこと、「住」とはとどまること、「坐」とは坐ること、「臥」とは寝ることで、生活すべてを指します。）の生活に安住し、お互いに安らかでおだやかな日々を送ることに、人間として生まれてきたこの世に価値を見いだしていく」といふのです。

なむなむのんのんさま

福島義之家(福本)の皆さん



秋彼岸に、「先祖様の」供養のためご法事を致しました

大本山永平寺 参拝

十一月二十七日～二十九日、曹洞宗岡山県宗務所主催で、大本山永平寺参籠・永光寺・大本山總持寺祖院参拝を八十一名で開催。少林寺からは九名が参加。永平寺は、曹洞宗開祖道元禪師が開山。永平寺では生活そのものが修行で仏道の実践です。一泊二日修行僧と共に規律正しい禪の実践を体験致しました。

總持寺祖院は、道元禪師から四代目の瑩山禪師が一三二一年に開山。佛教と弟子育成の功績が多く、曹洞宗発展の礎を築かれました。しかし、一八九八年の大火災により、一九一一年布教伝道の地を石川県から神奈川県横浜市へ移転。祖院として再興されました。

永光寺は、瑩山禪師が總持寺を開く前の一三一二年に開山。また、總持寺を開山後、遷化（亡くなる）されたのが永光寺。御老峯と呼ばれ、如淨禪師（道元禪師の師匠）、道元禪師、永平寺一代懷奘（けいざん）禪師、永平寺三代義介禪師、瑩山禪師、五祖の遺品が埋葬される曹洞宗の聖地。



總持寺祖院 仏殿（石川県）



永光寺 法堂（石川県）



永平寺 仏殿（福井県）



大本山永平寺（福井県）参拝 2号車

盂蘭盆大施食会

八月十八日、恒例の盂蘭盆大施食会を約四十名の参列を頂き開催。萬福寺ご住職翁泰仙老師の「法話を一部掲載致します。



「コロナ禍で、人間模様、人間の本性を我々は色々とみせ、人間の苦しみや悩みを我々は多く抱えました。「逆境をステップに」をテーマに、「コロナを一つの学びにして、日常の考え方を通して、自分を見つめ直し考えていきたいです。

人間は「コロナで差別や誹謗中傷するなど自己中心的。一方で、医療従事者など自分を犠牲にして他人のためにする

（利他）。感染、命を落とす、失業や就職など人生は思い通りにならない。外出制限など当たり前のことこそ、実は当たり前ではなく、「有り難い」となのです。人は自分が見るのは絶対的だと思います。私は赤い扇子を持つています。誰が見ても人間の世界では赤い扇子だと植え付けられている。これは犬が見るとどうでしょうか。

人間は光を通じて目で三原色「赤緑青」のみ捉えるのです。例えば、紫外線という光は人間には目で捉えることが出来ません。しかし、昆虫「四原色・赤緑青透明な紫外線」は紫外線を見ることが出来ます。春先にモンシロチョウが畠で飛んでいると、我々は紫外線で白色に見

えますが、昆虫がモンシロチョウを見るときは黒色に見えるそうです。これは紫外線が見えるからです。

ところが、犬は二原色「青黄(紫)」です。犬は赤い色は見えない。赤い扇子はおそらく灰色か黒い色に見えるでしょう。何が扇子の真実か。自分というものを強く持つから埋め込まれ、固定観念を持ち差別になつたりします。

例えば、ビールを皆さんへご馳走します。しかし、ビールジョッキが尿瓶だとどうでしょう。これが固定観念。いくら煮沸消毒をしてもビールを喉へ通さない人は多いでしょう。

縁を頂き、人としての生を歩むことができる。「ありがたい」という心に目覚めること。なくしたり、恵まれなかつた人がその時有り難いと感じる。当たり前でなく有り難い。我々は少し立ち止まり、恵まれた生活にいる訳です。コロナで逆境に遭つた時、愚痴を先に言つたり、不幸だと思い込んだり、腹が立つたりするだけ。少し発想を変えて我々は物事を捉える」ことが大切ではないでしょうか。

禅道場体験

八月二十三日、第十二回禅道場体験を入門者十一名で開催。読経・坐禅・法話・写経・写仏など半日間修行致しました。お楽しみ会は、ICHINOE氏平良子先生のご指導で、オリジナルフォトフレームが出来上りました。



九月二十九日(旧暦八月十五日)中秋の名月にお月見坐禅会を三十三名(大人十九名、子供十四名)で開催。まずは、月光浴しながら坐禅。次は、田村洋子氏による民話を四話頂きました。(①ぐず②長い名前の子ども③椎茸のはじまり④小僧改名)

そして、ギターひつじ氏によるギターや演奏。ギターを始めて間もないとは思えないほど、ご自身で作詞作曲された歌は温かく澄んだ歌声。お月様に包まれ、一緒に楽器を鳴らし楽しみました。

お月見坐禅会

九月二十九日(旧暦八月十五日)中秋の名月にお月見坐禅会を三十三名(大人十九名、子供十四名)で開催。

まずは、月光浴しながら坐禅。

次は、田村洋子氏による民話を四話頂きました。(①ぐず②長い名前の子ども

③椎茸のはじまり④小僧改名)

特派布教講習会

五月三十日、岡山県北から約百七十名が北房文化センターに参集し、特派布教講習会を開催。少林寺からは、田丸史氏、福島宏次氏、原田幹久氏、國米順次氏、住職の五名が参加。

永伝寺ご住職川上宗勇老師（東京都）がご法話されました。「どのような生き方をしていくか。同時」という生き方が事として受け止めて生きていく。修証義に「海の水を辞せざるは同時なり、この故に能く水聚りて海となるなり。」と示されています。沢山の川は必ず海に注ぎます。大きな川もあれば、小さな川もある。澄んでいる川もあれば、大雨が降り濁流の川もある。どんな川も必ず海に注がれています。その海は川を絶対に拒否しない。逆に川もどんな海にでも流れています。共に生きていくという生き方の姿勢を示されています。手を携えて生きていく姿勢です。違いを認め合いながら、しつかり受け止め合っています。」とお話されました。

檀信徒研修会

十一月一日、岡山県内から約五百名が新見文化交流館に参集し「大本山總持寺開山太祖瑩山紹瑾禪師七百大遠忌岡山県予修法要・檀信徒地方研修会並びに管内人権学習会」を開催。少林寺からは田丸史氏、福島宏次氏、國米順次氏、住職の四名が参加。

大本山總持寺單頭・柴田康裕老師が「瑩山禪師のみ教えに学ぶ」大本山總持寺での生活を通じて、「ご法話されました。

「『坐禅用心記』に、常に大慈大悲に住して、坐禅無量の功德、一切衆生に回向せよ。驕慢我慢法漫を生ずること莫れ。」と瑩山禪師様はお示しになられました。現代語訳しますと、常に大慈悲心を起こして、坐禅無量の功德を、一切の生きとし生けるものに回らし向けなさい。おのれに高ぶつて人を見下げたり、自論を押し通したり、偉そうになつてはならない。これが瑩山禪師様のお言葉で、非常に大事です。」とお話されました。

イルミネーション

十一月十四日～十八日「第四回大井西イルミネーション」境内を彩る光の祭典」を「地域を明るくしようと地域の有志・喬松小学校・少林寺で共同開催致しました。



護持会

■清掃奉仕活動

七月二十三日 役員 二十八名
十二月十日 役員 二十六名

■駐車場整備 七月完成



お話し聞きます

悩んでいる方
落ち込んでいる方
寂しさを感じている方
つらい方
私でようしければ
お話し聽かせて下さい



電話 0868-57-2303
電話 080-6351-9686
メール info@shorinzenji.com

住職のつぶやき



▼辰年「辰」は、草木の形が整った状態を指すもの。辰は、龍、龍とも書く。少林寺の山号は澤龍山。縁起のよい年だ。穏やかな年になりますように…

▼龍の姿は「龍に九似あり」。角は鹿、頭は駒駝、目は鬼、身体は蛇、腹は蜃（蜃氣楼）をつくる伝説の生物）、鱗は鯉、爪は鷹、掌は虎、耳は牛。に似て長い髭。顎の下に一枚逆さに生えた鱗（逆鱗）。龍は逆鱗に触れられると激高し、即座に殺すとされる。今年は、逆鱗に触れないうように、要注意一日上の方のご意見をよく聞こう。誰でも嫌なことはある。

婦人会

■清掃奉仕活動

七月二十三日 中北上 二十三名
八月十八日 坪井下 二十名
十二月十日 中北下・南方中・領家
十八名

本紙をもって賀状と致します
また服喪中の方へご挨拶と致します

お知らせ

はじめまして よろしくお願ひします



愛犬 くる

(オス)

令和5年10月生

令和6年 行事予定

覚禅会	毎月第2土曜	9時～坐禅	10時～写経
-----	--------	-------	--------

<1月～6月予定> 1月13日 2月10日 3月9日

4月6日(第1土曜) 5月11日 6月8日

- ・ 参加費無料。坐禅と写経の二部制で、一方のみ参加可能です。
- ・ 足の不自由な方は、椅子に座り足を組まずに出来ます。
- ・ 写経は机・椅子・道具あります。使い慣れた道具があればご持参下さい。
- ・ 檀家などは問いませんので、どなた様もお気軽にお越し下さい。
- ・ 個別日程は要相談。個人・団体など出張で坐禅・写経・法話などします。
- ・ 急な日程変更がありますので、事前にご確認頂けますと幸いです。

修正会

元日～3日(随时受付) 厄払いなど新年のご祈祷します

婦人会 清掃活動

3月10日(日) 9:00 坪井上地区

総供養会

3月20日(水) 10:00 先祖供養
10:45 AEDを使用した救命講習
講師 ALSOKトレーニング講師

御詠歌 講員募集中 毎月2回 各回2時間 参加費1,500円



曹洞宗 澤龍山 少林寺

TEL 0868-57-2303 TEL 080-6351-9686

〒709-4606 岡山県津山市中北上1150

メール info@shorinzenji.com



ホームページ



フェイスブック



インスタグラム



ブログ



ライン